

進路成熟度に影響する要因の探索的検討

永田 正明

第一工業大学 共通教育センター

要旨

これまで時間的展望については、関連していると考えられそうな要因との相関についての研究は数多くなされてきたが、時間的展望が動機づけ的側面を持っているかどうかについての実証研究は充分になされていないため、本研究ではこの点について探索的な検討を行った。時間的展望の「未来」や「過去受容」尺度は、進路成熟度への影響がみられなかったことから、単純な未来展望感が高校生の進路決定に影響があるとは言いにくい。しかし、時間的展望の測定尺度の開発をさらに進めることで、個人の進路意識に影響を与えている要因をもう少し明らかにできる可能性もあると考えられる。

Key Words 進路成熟態度 未来展望

1. はじめに

Parsons, F. (1909)が“Choosing a Vocation”の中で「個人のもつ諸特性と職業の要求する所要性能を正しく把握し、両者の合理的推論のもとで結合することが、賢明な職業選択には大切である」という定義理論を提唱して以来半世紀にわたり、進路指導はこの理論をもとに実践された。その後、本理論が人間を動的にとらえていないとの指摘もあり、個人の「Career」に着目して、その発達に応じた進路指導の展開が必要であるとの観点から、Super, D. E. (1957)は職業発達理論を、彼の著“The Psychology of Careers”の中で明らかにした。この理論は米国はもとより、わが国でも早くから受け入れられ、その後1970年代には職業発達理論は、進路発達理論へと修正が行われている。高校での進路指導においては、生徒が社会との関わりの中で将来の自己像を見つめ、その実現に向けて努力しようとする意識を高めていくことが重要である。このような個人と社会との相互作用は、キャリアという言葉を用いて説明される。キャリアとは一般的には経歴、履歴またはその人の専門職

業、仕事などの意味に使われることが多いが使用する人や研究者によってさまざまに定義されている。渡辺(2007)は、日本においてキャリアという用語は、職務、職種とほとんど同義に用いられている現実もあり、職業生活での昇進、昇格という意味を内包させていたりする。またキャリアという言葉には、「職業との関わりにおける個人の行動」、あるいは「個人が具体的な職業や職場などの選択・決定を通して創造していく個人のプロセス」という意味も含まれており、仕事を経験している個人の内面の意味が内包されていると述べている。そしてまた、Raynor & Entin(1982)は、キャリアの概念について「現象学的な概念であると同時に、行動に関わる概念である。個人が行う事と、その人の自己についての見方とを結びつける概念とし、キャリアが長期間にわたって抱く自己についての感覚から成っており、それは個人の行為とその結果を通して明確化される。キャリアは、人が自分の社会環境の文脈の中で自己の捉え方を規定すると説明している。このようなキャリアの持つ人間的成長や自己概念の要素には、その発

達過程を捉える視点が含まれている。ここでいう自己概念とは、Super(1963)によると個人が主観的に形成してきた自己についての概念である主観的自己と他者からの客観的なフィード・バックに基づき自己によって形成された自己についての概念である客観的自己の両者が、個人の経験を通して統合され、構築されていくとしている。また自己概念は、個人が自分の価値、興味、能力をどのように捉えているかについての多面を持つものであり、その中でキャリアに関する側面に関わる自己概念はキャリア自己概念と呼ばれており、キャリア自己概念を発達させ実現していくプロセスはキャリア発達と呼ばれている。例えば、Gysbers(2005)は、生涯にわたるキャリア発達を「一人の人間の人生における役割、そして出来事を統合することによって、生涯を通じてなされる自己発達」と定義としている。このことについて Super (1957)は、キャリア発達の過程を自己概念の成熟、発達という観点から「成長期」、「探索期」、「確立期」、「維持期」、「移行期」に分類している。また、Super(1963)は、青年期の職業に対する興味・関心・考え方や職業選択等を通じて、職業的自己概念が形成されることを指摘しており、浦上(1996)は、進路選択過程に対する自己効力感が高いことは、進路探索意図や進路探索行動を促進するものであると説明している。Super(1984)は、キャリア発達課題へ取り組もうとする個人の態度的・認知的レディネスとしてキャリア成熟という概念を提唱している。キャリア成熟は心理社会的構成概念であり、職業的成熟の程度を意味するものである。我が国では、坂柳(1999)が「成人が自分のこれからの人生や生き方、職業生活、余暇生活について、どの程度成熟した考えを持っているかを表す概念」として成人キャリア成熟という概念を定義し、成人キャリア成熟尺度を構成している。この尺度は、自己のキャリアに対して、積極的な関心をもって

いるかという「キャリア関心性」、自己のキャリアへ対して、将来展望を持ち、計画的であるかという「キャリア計画性」、自己のキャリアへの取り組み姿勢が、自律的であるかという「キャリア自律性」の3因子で構成されている。浦上(1993)は、高校生を対象に坂柳・竹内(1986)の教育的進路成熟(進学)と職業的進路成熟の2側面を分けて測定する進路成熟態度尺度を用いて進路成熟と進路選択に対する自己効力感との関連について検討し、職業的進路成熟と進路選択に対する自己効力感との間に関連性があることを指摘している。このように、キャリアの概念は発達の観点から整理され、学校段階における進路指導の中心的な概念となっている。専門高校においては特に、3年次には就職することを念頭に置き入学する生徒が大半を占めるため、生徒それぞれの将来の職業に対する自信や展望を適切な時期に持たせることも重要と考えている。

進路発達理論は、現代の進路指導の理論と実践の基盤になっており、進路指導の目標は、生徒の進路発達や進路成熟を促進することであるとされている。このような進路指導の目標達成には、進路発達や進路成熟の実態を正確に把握しておく必要がある。そのためには生徒の進路発達や進路成熟を正確に測定評価する必要があると思われる。

時間的展望の概念は、Frank, L. K. (1939)により最初に提唱され、人間の行動は個人及び自己の文化の影響を受けていることを示した。次いでLewin(1942)が、時間的展望を場の理論における生活空間の要素の一つとして位置づけ、個人の生活空間が現在だけでなく未来や過去をも含んでおり、個人の時間的展望とやる気の間には密接な関連があることを示している。Lewin(1942)による時間的展望の概念化の後、1950年代になって、時間的展望の実証研究が多く行われるようになった。その多くはLewinの理論化に

基づいたものであり、Lewin の定義が広義かつ曖昧なものであったため、多くの研究者は時間的展望の関連要因や構造を検討していく際に、実際には様々な下位概念を独自に定義し、また独自の測定手法を使用していた。例えば時間的展望の先行要因として、社会経済要因、パーソナリティ特性、自己概念といったものを想定したりした。さらには、時間的展望と適応-不適応といった行動との関連を研究している。しかし、適応-不適応といった問題になると個人のもつ要因だけでなく、他者からの評価や影響が関連要因として介入する可能性が大きいため、個人の時間的展望と適応-不適応関係を述べることは単純ではないと考えられそうである。パーソナリティ特性と時間的展望との関係においては、達成動機や満足の遅延などが取り上げられ、多くの研究結果が蓄積されている。それによると、達成動機の高い者は時間的態度や展望がよりポジティブで長いという結果を得ている。

2. 目的

生徒の進路については、自己効力や自我同一性との関連をみつかったものや、精神的な適応状態との比較を試みた研究などが見られるが、本研究では時間的展望、一般的統制感、神経症傾向といった概念が進路成熟態度の発達にどの程度影響があるのかを探索的に検討することを目的とした。特に時間的展望感が個人の進路成熟態度を形成する動因として働くかを確認したい。さらに時間的展望には、個人が自己の過去や未来にどのような出来事を想起するかという認知的側面と、どのような感情を持っているかという情緒的側面とがあるが、本研究では質問紙として回答しやすい情緒的側面のうち時間的態度に焦点を当ててみた。人間の行動と強化の随伴性が、行動を予測する上で重要であること、また個人の時間的展望に影響を及ぼす要因として自分が望んだときに、自分の欲する結果が得

られる可能性についての期待と定義される個人の統制感が考えられることなどから、Locus of Control(以下 LOC)概念との関連、さらに個人の認知的要因とは別に、人格的要因として MPI の神経症傾向との関連を調べた。アイゼンクによると、神経症傾向を一種の動因として見なしているからである。

3. 1 質問紙

- (1)進路成熟態度尺度(坂柳・竹内, 1986)のうち職業的進路成熟に関する 15 項目を実施。
- (2)時間的展望体験尺度(白井, 1994)の 18 項目。
- (3)LOC 日本版(鎌原ら, 1982)の 18 項目。
- (4)MPI 日本版のうち神経症 24 項目。

3. 2 被験者

専門系高校 3 年生 148 名(男子 81, 女子 67 名)

3. 3 実施日

1998 年 5 月 28 日

4. 1 因子分析結果

進路成熟態度についての因子分析結果は、3 項目を除いて坂柳ら(1986)の抽出した因子と同一の因子が確認された。因子名も同一の「進路自律度」、「進路計画度」、「進路関心度」とした。時間的展望体験尺度についての因子分析結果は、1 項目を除き白井の作成した尺度と同一の下位尺度を得た。因子名も同一の「現在の充実感」、「目標指向性」、「過去受容」、「未来」とした。

4. 2 重回帰分析結果

進路成熟態度を目的変数として、時間的展望、LOC、MPI 神経症傾向を説明変数にして重回帰分析を一括投入により行った結果を Table1 に示した。

Table1 重回帰分析結果

| | 進路自律度 | 進路計画度 | 進路関心度 |
|-------------|----------|----------|----------|
| 現在の充実感 | 0.120 | -0.115 | 0.090 |
| 目標指向性 | 0.089 | 0.573*** | 0.284** |
| 過去受容 | -0.137 | -0.000 | 0.045 |
| 未来 | 0.098 | 0.096 | 0.045 |
| 内的統制 (LOC) | 0.272*** | 0.106 | 0.102 |
| 神経症傾向 (MPI) | 0.046 | -0.027 | 0.327** |
| 重相関係数 | 0.384*** | 0.630*** | 0.406*** |

*** P<.001 ** P<.01

自分の力で進路を決定していくという進路自律度について、内的統制をすることが影響を与えていると言える。進路関心度については、「目標指向性」や「神経症傾向」が影響を与えていることが示された。目標指向性の質問は「将来の計画や目標があるか否か」を問う項目であるので、進路計画度や進路関心度と当然関連は強いと考えられる。予想に反して「現在の充実感」や「未来」といった時間的展望感が進路成熟態度に影響を与えるという関連性は認められなかった。

5. 考察

本研究結果からは、予想したような時間的展望の情緒的側面が進路成熟度に影響を与えている点は示されなかった。つまり単純に未来が明るいとか現在が充実していると認識しているだけのレベルでは、就職活動を行うという人間の行動には直接的には結びつきにくいと考えられる。しかし、時間的展望尺度の測定内容の開発をさらに詳細に進めることで、個人の進路意識に影響を与えている要因をもう少し明らかにできる可能性はある。それは、Table 1の「目標指向性」尺度の質問項目内容の多くが「進路計画度」尺度の質問項目内

容とよく似通っているとはいえ、標準偏回帰係数の値が高い点や「進路関心度」に対する標準偏回帰係数も有意であった点をもう少し明らかにしたい。具体的には、今回使用した時間的展望尺度以外の測定尺度での結果も比較検討したい。また、時間的展望の認知的側面（例えば、展望の広がり、密度、方向）については、達成動機などとの正の関連が多くの研究結果より確認されているので、今後認知的側面との関連性についても検討が必要だと考えられる。さらに時間的展望の測定法についても、より妥当性の高い方法の開発が望まれよう。時間的展望についてのテストは、サークルテストなどもあるが、なかなか単純には測定できそうもない問題でもある。また、LOCとの関連性がいまひとつはっきりしなかった点について考えてみると、内的統制、外的統制を問わず就職活動については、最終的には自分のことだからやらねばならないという認知度の強度の方が強いためかもしれない。MPIの神経症傾向の影響については、「進路関心度」が進路決定までの行動・態度の中でも時系列的に初発的なものである点を考えると、アイゼンクの考えるように動因として作用している可能性も若干示唆された。

注記

本論文は応用教育心理学会第13回研究大会(1998年11月14日尼崎市トレピエ)にて発表したものを加筆修正したものである。

参考文献

- Frank, L.K. 1939 Time perspectives. *Journal of Social Philosophy*, 4, 293-312.
- Gysbers, N.C. & Henderson, P. 2005 *Developing & Managing Your School Guidance and Counseling Program 4th ed* American Counseling Association, p.55.
- 鎌原雅彦・樋口一辰・清水直治 1982 Locus of Control 尺度の作成と信頼性, 妥当性の検討 *教育心理学研究*, 30, 302-307.
- Lewin, K. 1942 Time perspective and morale. In G.Watson, *Civilian morale*, 48-70, Houghton Mifflin.
- MP I 研究会 1969 新・性格検査法—モーズレイ性格検査法— 誠信書房.
- Parsons, F. 1909 *Choosing a Vocation*. Boston and New York, Houghton Mifflin, 1909.
- Raynor, J.O. & Entin, E.E. 1982 *Motivation, career striving and aging*, New York, Hemisphere.
- 坂柳恒夫・竹内登規夫 1986 進路成熟態度尺度の信頼性および妥当性の検討 *愛知教育大学研究報告*, 35, 169-182.
- 坂柳恒夫 1999 成人キャリア成熟尺度(ACMS)の信頼性と妥当性の検討, *愛知教育大学研究報告*, 48, 115-122.
- 白井和明 1994 時間的展望体験尺度の作成に関する研究 *心理学研究*, 65, 54-60.
- 杉山 成 1994 中学生における一般的統制感と時間的展望の関連性 *教育心理学研究*, 42, 415-420.
- Super, D.E. 1957 *The psychology of careers; an introduction to vocational development*. Harper & Row.
- Super, D.E. 1963 *Self concepts in vocational development*. Self-concept theory, New York College Examination Board, 1-16.
- Super, D.E. 1984 *Career & Life development*, Brown, D. & Brooks, *Career Choice and Development*, Jossey-Bass.
- 浦上昌則 1993 進路選択に対する自己効力と進路成熟の関連, *教育心理学研究*, 41, 358-364.
- 浦上昌則 1996 女子短大生の職業選択過程についての研究, 進路選択に対する自己効力, 就職活動, 自己概念の関係から, *教育心理学研究*, 44, 195-203.
- 渡辺三枝子 2007 キャリア心理学に不可欠の基本 キャリア支援への発達のアプローチ, ナカニシヤ出版, 1-22.

時間的展望体験尺度(白井, 1994)

1. 毎日の生活が充実している。
2. 毎日が同じことのくり返しで退屈だ。^{a)}
3. 今の生活に満足している。
4. 毎日がなんとなく過ぎていく。^{a)}
5. 今の自分は本当の自分ではないような気がする。^{a)}
6. 私には、だいたいの将来計画がある。
7. 私には、将来の目標がある。
8. 私の将来は漠然としていてつかみどころがない。^{a)}
9. 将来のために考えて今から準備していることがある。
10. 10年後、私はどうなっているのかよくわからない。^{a)}
11. 過去のことはあまり思い出したくない。^{a)}
12. 私の過去はつらいことばかりだった。^{a)}
13. 私は過去の出来事にこだわっている。^{a)}
14. 私は、自分の過去を受け入れることができる。
15. 私には未来がないような気がする。^{a)}
16. 自分の将来は自分できりひらく自信がある。
17. 私の将来には、希望がもてる。
18. 将来のことはあまり考えたくない。^{a)}

^{a)} Item with reversed direction.

職業的進路成熟態度尺度(坂柳・竹内, 1986)

| 略号 | 職業の選択について、次のような15組の意見があります。それぞれについて、(ア) (イ) (ウ) 3つのうち、最も自分の気持ちにあてはまるものの記号を1つ選び、回答用紙に○印をつけて下さい。すべての意見の組について答えて下さい。 | スコア |
|-------|---|-----|
| OCA 1 | (ア) 職業の選択や決定は、自分から進んでする。 | 2 |
| | (イ) 職業の選択や決定は、できるだけ自分でするつもりである。 | 1 |
| | (ウ) 職業の選択や決定は、誰か他の人(親や先生など)にしてもらいたい。 | 0 |
| OCP 1 | (ア) 志望職業につけるかどうかは、その時の運によって決まる。 | 0 |
| | (イ) 志望職業につくためには、できるだけ計画を立てることが大切である。 | 1 |
| | (ウ) 志望職業につくためには、計画を立て、準備することが大切である。 | 2 |
| OCC 1 | (ア) 最近、将来の職業や就職のことが、とても気になっている。 | 2 |
| | (イ) 最近、将来の職業や就職のことが、すこし気になっている。 | 1 |
| | (ウ) 将来の職業や就職のことは、あまり気にならない。 | 0 |
| OCA 2 | (ア) 将来の職業や就職先は、誰か他の人(親や先生など)に決めてもらいたい。 | 0 |
| | (イ) 将来の職業や就職先は、できるだけ自分で考えて決めたい。 | 1 |
| | (ウ) 将来の職業や就職先は、自分でよく考えて決める。 | 2 |
| OCP 2 | (ア) 志望している職業は、よく考えたうえなのでこれから先も変わらない。 | 2 |
| | (イ) 志望している職業も、その時になれば変わるだろう。 | 1 |
| | (ウ) 現在志望している職業は、ない。 | 0 |
| OCC 2 | (ア) どんな種類の職業や産業があるのか、あまり関心がない。 | 0 |
| | (イ) どんな種類の職業や産業があるのか、すこし関心がある。 | 1 |
| | (ウ) どんな種類の職業や産業があるのか、とても関心がある。 | 2 |
| OCA 3 | (ア) 志望職業の内容や就職方法などは、自分で調べる。 | 2 |
| | (イ) 志望職業の内容や就職方法などは、できるかぎり自分で調べる。 | 1 |
| | (ウ) 志望職業の内容や就職方法などは、先生や親などに調べてもらいたい。 | 0 |
| OCP 3 | (ア) 志望職業は、まだ決まっていない。 | 0 |
| | (イ) 志望職業は、前から決まっているが、そのための努力はしていない。 | 1 |
| | (ウ) 志望職業は、前から決まっており、現在もそれに向かって努力している。 | 2 |
| OCC 3 | (ア) 何のために職業について働くのか、真剣に考えたことがある。 | 2 |
| | (イ) 何のために職業について働くのか、少しは考えたことがある。 | 1 |
| | (ウ) 何のために職業について働くのか、あまり考えたことがない。 | 0 |
| OCA 4 | (ア) 将来の職業は、自分一人の責任で決められない。 | 0 |
| | (イ) 将来の職業は、できるかぎり自分で責任をもって決めたい。 | 1 |
| | (ウ) 将来の職業は、自分で責任をもって決める。 | 2 |
| OCP 4 | (ア) 自分が将来どんな職業につくのか、見当がつかない。 | 0 |
| | (イ) 自分が将来どんな職業につくのか、少しは見当がつく。 | 1 |
| | (ウ) 自分が将来どんな職業につくのか、大体見当がつく。 | 2 |
| OCC 4 | (ア) どんな職業を選ぶかは、自分にとってたいした問題でない。 | 0 |
| | (イ) どんな職業を選ぶかは、自分にとって少しは問題である。 | 1 |
| | (ウ) どんな職業を選ぶかは、自分にとって重要な問題である。 | 2 |
| OCA 5 | (ア) 職業についてからでも、ある程度は親や先生に迷惑をかけると思う。 | 0 |
| | (イ) 職業についてたら、できるだけ親や先生に迷惑をかけないつもりである。 | 1 |
| | (ウ) 職業についてたら、親や先生に決して迷惑をかけない。 | 2 |
| OCP 5 | (ア) 志望職業につくための道筋が、大体わかっている。 | 2 |
| | (イ) 志望職業につくための道筋が、少しはわかっている。 | 1 |
| | (ウ) 志望職業は、今のところない。 | 0 |
| OCC 5 | (ア) 自分を生かせる職業について、とても知りたい。 | 2 |
| | (イ) 自分を生かせる職業について、少しは知りたい。 | 1 |
| | (ウ) 自分を生かせる職業について、知りたいと思わない。 | 0 |